

# “Heart to Heart”

第5巻 第2号 (No. 15)

発行日 平成22年12月4日

心から心へ わかちあう あたたかさ

## 新年をよき成長の年に

武蔵野東教育センター所長 長内博雄

### 目次:

新年をよき成長の年に	1
コラム：テレビマンの子育て日記2 「みんな違ってみんなイイ」	2
療育プログラムのようす	2・3
コラム：韓国 チャンピッ 学校訪問記(1)	4
教育センターからのご案内	4

冬休みも間近になりましたが、教育センターではスタッフと子どもたちのやりとりがにぎやかに聞こえてきます。こうした活動を目の前にしていると、社会性はもちろんのこと、ことばにしても認知面にしても、「人とのかかわり」が、これらの発達を促し支える大きなポイントになっているのを感じます。

子どもにとって人とのかかわりにおける基本の場は家庭であり、その中心は親子のかかわりになります。ここでは、親子のかかわりにおける微妙なところを記してみます。

子どもへの接し方はその発達に応じて変化していくべきものですが、毎日付き合ってもその発達を把握していくのは簡単ではありません。よくありがちなことは、子どもが自分でやりたいと思っていたりできるようになっていることも、過干渉的に、または子ども扱いをしてやってあげてしまっていることです。

親の立場にしてみると、時間をかけて本人にさせていくのがよいことはわかっているが、完璧にできないために結局は手がかかるからとか、親から見ればそれはほとんど本人のあそびやいたずらになっているからとか、その理由はいろいろでしょう。

また本人の成長に気づかず、何気なく手をかけてしまっていることも少なくありません。こうしたときに、意思表示のはっきりしているお子さんと、抵抗してみたりお母さんの手出しを嫌がって自分でやり始めたりします。

ただし、ことばが少なく指示待ちの傾向が強いお子さんの場合には、こういうことにはまだ意識が向かない、できないはずという親の思い込みで、本人にさせてみることなく過ぎていることも多いのです。教育センターに通う

ようになって急にいろいろなことを覚えたりするのは、思った以上に子どもの内面が動いていて、変化の準備ができている状態の表れでもあります。既成概念をもたずにさまざまな教材を提示したときに、本人のアンテナに引っかかってくるものがあるわけです。

時には、お母さんが手をかけてやってあげているうちに、子どもがその居心地のよさにどっぷり浸かって何でもやらしてもらわないと気がすまなくなる。いつもお母さんの心を自分に引き付けて、相手を縛るような状態になっていることがあります。お母さんもそれに慣れきって、この密着関係が互いの安定を図るすべになっている。こういうとき、当のお母さんがそうと気づくのはなかなか難しいようです。

ともあれ、自立の度合いはそのまま本人における自由の度合いを意味します。程度の差はあれ、今できることあるいはもしかしらできるかもしれないことに思いきって挑戦し、それぞれのお子さんなりの自立を一步ずつめていくように心がけていきたいですね。

話は変わりますが、現在、23年度年度療育プログラム受講の募集中です。現在とちがうプログラム構成になっている曜日もあり、勝手がちがって選択に迷う方もいるかもしれませんが、いろいろなプログラムにトライしてみてくださいと思います。初体験のプログラムに、予想していなかったお子さんへの影響などを発見することがあるかと思えます。

来たる年も、子どもたちのよりよい成長を大いにはかかっていきたいと思えます。保護者の皆さんも、よいことがたくさん集まってくるよう、「必ずすばらしい年になる」と心に決めて、この新年をすがるすがしくお迎えください。





## コラム テレビマンの育児日記(2)

室山 哲也 (学園アドバイザーボード、NHK解説委員)

## 「みんな違ってみんなイイ」

今年10月、COP10(生物多様性条約の国際会議)が名古屋で開かれました。今地球には、名前がわかっているものだけで145万種、未知のものを入れると3000万種(学者によっては1億種)の生物がいます。地球誕生後、最初の生物から始まって、遺伝子が果てしなく組み換えられ、生物は「多様化」の方向に進化してきました。そして目に見えない複雑な因果の糸でつながれ、「共存共栄」の巨大なシステムで、生かしているわけです。

その生物多様性が、今、自然破壊や乱獲などの人間活動で、急速に壊れ始めています。今までの地球史でも、種の絶滅は何度かありましたが、こんなに急速におきたのは初めてです。生物学者はこの状況を、よく飛行機にたとえます。145万種の部品でできている飛行機が、毎日たくさん部品を落としながら飛んでいるようなものだということです。私たち人類も、

生物の仲間、植物が作る酸素で呼吸し、動植物を食べて生きていることを思うと、生物多様性の危機は、そのまま人間の危機にもつながるわけです。

私は、COP10の取材を通して、「多様性」の大切さを学びました。なぜ生物が多様化してきたのかというと、環境の激変にも生物全体として耐え、生き延びることができるからです。船室がひとつの船よりも、いくつもの船室に分かれているほうが、座礁したとき沈まないように、生物も多様なほうが、環境の変化に順応し、生き延びることができます。会社も、様々な能力の社員がいるほうが、経済社会の激変に適応し、新しい商品開発ができるし、農業だって、単一作物の巨大な農地よりは、複数の作物をモザイク状に植えた農地のほうが、害虫の被害を最小限にとどめることができます。こう考えると、「多様性」は、生物が長い歴史で生み出した、絶妙のメカニズムだと

いえます。この原理は、私たち人類の存在の根底にも、きっと流れているはずなのです。

私は「みんな違ってみんなイイ」という言葉が好きです。人間社会にも様々な文化や個性があり、それぞれが共鳴しあい、影響しあい、共存することが大切です。しかし、残念なことに人間は、現代文明で社会を均一化し、多様性を失う方向にあります。私たちは今、「生物多様性」という言葉をもう一度噛み締め、その中に秘められた普遍的な意味を、読み取る必要があるのではないのでしょうか。社会に様々な個性の市民が暮らし、異なる文化を尊敬し、協調しあう社会に、私たちの子供は生きてほしいと思うのです。



## 療育プログラムのようす

**ダンス教室** 後期は、手具を使って動きながら身体操作性と表現力を高めることを課題としています。布をもって波や風になってみたり、小さなブーケを手にもったポーズをきめてみたりと、表現することの楽しさを体験しています。とりわけ人気が高いのは、ポンポンを使った表現です。軽快な曲に合わせて踊っていると、自然に笑顔がこみあげて、心も身体も元気になっていくのがわかります。時間を忘れて踊っていると、いつのまにか汗でびしょり…。この爽快感が、ダンス教室の醍醐味です。(新堂)



はりきって、行こー！

**コンピュータ教室** 全員がインターネットを利用したタイピングゲームに取り組むことができるようになり、タイピング技術の向上が見られます。また、「ワード」では、単語入力や文章入力だけでなく、フォントの色やポイント数を変える操作ができるように練習中です。「エクセル」では、お手本を基に「買い物リスト」を作成しています。品物名と金額を入力後、罫線を使って表を作成する操作ができるようになりました。今まで身につけてきたことを基本に、より実践的な操作ができるように取り組んでいきます。(藤本)



ワード入力練習

**SST教室** ゲームなどを通してソーシャルスキルを学ぶ時間の中で子どもたちにとっても人気があったのが『好き嫌いゲーム』です。いろいろな食べ物や乗り物などの絵を見て、なぜそれが好き(嫌い)なのかお互いに理由を発表し合い、好みや感じ方は人それぞれであることを知ることがこのゲームの目的です。どのクラスでもとても盛り上がり、中には自分で撮った写真を使って、お手製の『好き嫌いゲーム』を作ってきてくれた子もいました。もう一つの取り組みとして、どんなゲームで遊びたいかみんなで話し合っ決めて決めることにも挑戦しています。友だちと意見が分かれたり、なかなかいい意見が思いつかなかったりしたときにどうすればよいのか、そんなことを学んでいくことがこれからの課題です。(大澤)



上手な話し合いについてプリントで整理してみよう

**音楽教室** クリスマスも近づき、音楽教室では鈴や音つみき、ハンドベルなどキラキラした音が響いています。3,4年生が取り組んでいるのはハンドベルです。繰り返し階名でメロディーを歌う練習をしてきたことで、自分の音を正しいタイミングで出せるようになってきました。腕の力を抜いてベルを振ることも難しいですが、きれいな音が出せるよう、みんなの気持ちを一つにして頑張っています。(後藤)



心をひとつに奏でよう！



**幼児** 蝉の鳴き声で一杯だった9月、秋の気配が感じられるようになった10月、落ち葉が舞う11月。季節を通して子どもたちは様々なことに取り組み、「自分でやり遂げる力」が身についてきました。真剣な顔で色塗りをして



リースのできあがり！

ている時、最後まで落とさずに物を運ぶことができた時、三輪車やジャンピングボールを今までより長くできた時などみんなそれぞれ。そんな時に見せる満足そうな笑顔は最高！です。これからその笑顔が増えるよう、日々の指導を大切にしていきたいと思ひます。さあ、クリスマスまでもう少し。楽しみですね。(本田)



「サラダで元気」に出てくる動物を造りました

**1年生** 冬の寒さを吹き飛ばしてしまふほど元気いっぱいの1年生。国語の「サラダで元気」では、カタカナや「だれが」「どうした」など次々に登場する動物や「にんじん」「ハム」などの絵を使用しながら楽しく学習しました。算数では、紙テープやモールを使用して長さ比べをしたり、長針短針を確認しながら模型時計を操作したりする体験を通して理解を深めてきました。また、4月から取り組んでいる音読や歌唱、手本を見ながら指先を使って造り上げる粘土活動では、コツコツ練習してきたことが少しずつ形となってきています。(高橋)



発表と書き取り

**5・6年生、中学生** 教科学習の合い間に、毎回学校や家庭での様子を発表し合い、聞き取る力、質問する力を養っています。「～と～は、どちらが好きですか。」「～では、何をしましたのですか。」など、主語と述語を意識した質問に加えて、気持ちや感想を問う質問などでもできるように、次の段階を意識した取り組みを心がけています。今後、内線電話を利用して、顔が見えない人との会話をメモ用紙に書き取り、報告する活動を行っていきます。場面に合わせた話し方や報告することの大切さを学び生活の中で活かせるようにしていきたいと思ひます。(藤本)



「1kgって重い！」

**3年生** 算数では「長さ」や「かさ」、

「重さ」といった生活と関連の深い学習がいくつかあります。9月からは、「長さ」で実際に巻き尺を使って距離を測ったり、「重さ」で秤を使い重さを測定したりしてきました。特に「重さ」の中で1kgと1gを粘土で比較した時には、「(1kgの粘土を持って)重いっ！」と誰もが口にし、想像した以上に1kgが重いことが実感できました。体験学習・プリント学習、いずれにおいても、普段の生活に生きるよう、実感のもてる取り組みをしていきたいです。(北川)

**4年生** 今学習している国語の中に絵の中の人物がどんなことを言っているのかを考えて言葉を書き入れる課題があります。センターや家庭あるいは学校の中で使用している言葉は環境設定がある程度決まっていますので、いろいろな状況絵を見ながら「この場面だったらどんなことを言うのか」「この人はどう思っているのか」などを学ぶのにとてもよい学習となっているようです。子どもたちが書いた言葉を見て、「このように思っているのか」「それはちょっと違うのかも」などと子どもたちと話し合うことで、一人ひとりがより深く考え幅広い表現ができるようになってきています。(宮下)



なんて言っているのかな？

**2年生** みんなで声に出して九九を唱えたり、表を見ながら計算問題に答えたりして九九の学習を進めてきました。その他にも文章題や虫食い算、百マス計算などさまざまな形式の問題に挑戦することで理解を深めることができました。九九の暗唱が進むにつれて、授業中に自信を持って挙手できることが増えてきています。図工では、国語で学習した『お手紙』の登場人物を粘土で作りました。お手本を見ながら作った『がまくん』と『かえるくん』だけでなく、ほかの登場人物や『かえるくんの書いた手紙』を自分で考えて作るなど、それぞれがイメージを持って作品を作ることができました。(新田)



自信満々に挙手

**言語プログラム** 3～4枚の絵を時系列に並べてストーリーを話す練習をしています。まずは、身近なホットケーキやオムレツ、カレーの作り方から始めています。「始めに、タマゴを割って」「次に、かき混ぜて」「そして、フライパンで焼いて」「最後に、皿にのせます」などを繰り返すことでわかりやすく説明ができるようになってきています。お母さんのお手伝いをしながら覚えていくことがたくさんあるなあと、改めて感じています。(計野ち)



雪がふっています。順番わかるかな？

**体育教室** どの年齢のグループにも4月からの積み重ねの成果が顕著に表れています。幼児は、体力的な成長に加えて、静と動のけじめや、聞く力、見る力など社会性の基礎ともなる部分の成長が見られるようになりました。小学生は、インラインスケートの練習が始まりました。これまで積み重ねてきた、体の左右や上肢下肢の協調運動・バランストレーニングの成果もあり、転び方、立ち方、歩き方など、基本技術を順調にマスターしています。冬休み中は、家族や友だちとの余暇活動として楽しんでください。(鈴木)



5,6年生の滑走の様子



## 韓国 チャンピッ学校訪問記(1)

副所長 計野浩一郎

10月12日～17日の日程で韓国の仁川市にあるチャンピッ学校(日本でいうと発達障害のためのフリースクール)に中学校校長の石橋先生と一緒に招聘されて行ってきました。2010年3月に済州島にあるタソム発達障害者自立支援センターの作業所開所式に招かれたときも訪問しておりましたので今回が2回目となります。この学校の李校長とは、1991年に李校長がまだ幼稚園の園長をされていたときに東学園を見学されてからのお付き合いです。李校長の息子さんが自閉症ということもあり、幼稚園の園長時代も積極的に自閉症児を受け入れ、東学園の混合教育・生活療法を取り入れた素晴らしい教育を実践されていきました。その後、幼稚園を他の方に託し、フリーとして多くの教育・福祉機関等で自閉症児・者の支援に奔走されてきました。その支援されていた中の一つにチャンピッ学校があり、保護者や教師たちからの強い要請を受けて2010年6月よりチャンピッ学校の校長となりました。

チャンピッ学校は、公教育で適応できなかった子どもたちの保護者の方々が立ち上げた生徒数11名の小さな学校です。子どもたちは、朝9時に登校してジョギングから1日が始まり14時30分まで国語、算数、体育、図工、音楽等の集団による授業を受けた後、課外授業として学習、体育、音楽、民族楽器を受講し、16時30分に下校します。保護者の方々や教師たちの熱い思いに支えられ、子どもたちは健やかに成長していますが、李校長はさらに子どもたちの可能性を引き出していくためには、教師も保護

者も生活療法を深く理解し、同じ方向を向いて教育していく必要性を感じたこと、来年度には中学生になる子どもたちがいるため、教育課程作成への支援を得ることを目的に今回の招聘を決断されました。



李校長(中央)の家族とともに

私は、12日の20時頃にチャンピッ学校に到着し、滞在中のスケジュールと先生方が抱えている課題を確認し、22時にホテルにチェックインしました。翌日からは、子どもたちの登校から下校まで授業見学をしました。3月より、教材が充実し、目と耳でわかる授業を組み立てて実践していることに驚きを感じました。経験年数が少ない教師の集団ですが、教師一人ひとり、とてもパッションが高く、個性を発揮して子どもたちと向き合う姿にはとても素晴らしいものがありました。3月からの数ヶ月で、教師たちも子どもたちもこんなにも変わるものかと、李校長の目指す教育の一端を見ることができました。その一方で、教師間の連携や保護者との協力関係が弱く、一貫性を持って子どもたちと向き合っていないため、労力のわりに教育効果が現れていないということが、一番大きな課題であると感じました。この点を改善するきっかけになればとの願いをこめて李校長は私たちを招聘されたのだらうと考え、その期待に応えるべく残りの日々で先生方との話し合いを夜遅くまで重ねるとともに保護者への講演や話し合いを行いました。

### 教育相談のご案内

お子様に応じた教育法や接し方、進路についての悩みなど幅広く相談に応じます。お電話にて相談日時の予約をお取りください。電話相談も受け付けています。

相談時間：60分（火～土 9:30～17:00）

費用：5,000円（教育センター会員 3,000円）



### 武蔵野東教育センター

〒180-0012

武蔵野市緑町2-1-10

電話 0422-53-8585 FAX 0422-53-8595

Email: education-center@musashino-higashi.org

URL: <http://www.musashino-higashi.org>

### 心理検査のご案内

WISC-、K-ABCの検査を実施しております。ご希望の方は、お電話にてお申し込みください。

時間：120分程度（火または金 午前中）

費用：15,000円（教育センター会員 14,000円）

### 平成23年度の療育プログラムのご案内

平成23年度療育プログラムの申し込みを受け付けております。受講希望の方は、専用申込用紙またはホームページのフォームにて平成22年12月18日(土)までにお申し込みください。詳しい資料をご希望の方は、お電話かホームページで資料をご請求ください。